

指導方法等の改善計画について〔国語科〕

坂町立坂中学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校	広島県	全国
65%	58%	58.1%

全国学力・学習状況調査 正答率と本年度の結果について

- ・国語の教科全体の正答率は65%であり、全国や広島県の平均正答率を約7%上回った。
- ・領域別の正答率では、「話すこと・聞くこと」67%、「書くこと」78%、「読むこと」54.8%となっており、いずれも全国や広島県の平均正答率を上回っている。
- ・「意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」問題の正答率が36.7%であり、全問題の中で最も正答率が低く、かつ全国・広島県の正答率を下回った。

重点課題

・「意見と根拠など情報と情報との関係を理解すること」に課題が見られた。話し合いの中の発言（「おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。」）について説明したものとして適切なものを選択する問題が最も正答率が低かった。特に、根拠（人の好みや考えが反映されている）を意見と捉えている誤答が多く、26.6%に上った。**①**（3）選択問題、通過率36.7%）

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- ・国語の授業の中で、意見と根拠など情報と情報との関係を明確にさせる場面を設定する。説明的な文章を読む際には、文章の中のどの文が意見で、どの文が根拠かを、マーカーなどを用いて線を引かせ、視覚的に理解させる活動を行う。また、意見文を書く際には、まず、意見と根拠を明確にさせ、それを骨子として文章を膨ませて書かせる活動を行う。
- ・接続詞など、情報と情報の関係を示す言葉を復習し、実際に文を作らせることで、その接続詞が示す関係を理解させる。

指導方法等の改善計画について〔算数科・数学科〕

坂町立坂中学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校	広島県	全国
69%	52%	52.5%

全国学力・学習状況調査 正答率と本年度の結果について

- ・数学の教科全体の正答率は 69%であり、全国や広島県の平均正答率 15%以上、上回った。領域別にも、数と式 71.6%、図形 53.9%、関数 72.7%、データの活用 73.6%であり、いずれの項目も全国や広島県の平均正答率を上回っている。なお、全国平均を最も大きく上回った領域は数と式（+22.2%）、もっとも小さかった領域は関数（+12.6%）であった。
- ・すべての問題（全 16 問）で、全国や広島県の正答率を上回っている。

重点課題

- ・18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する問題が最も正答率が低かった。グラフを用いて使用時間の違いを求めようとしているが、 $y=0$ のときの x の値を求めることについて記述できていない生徒が 10.9%いた。また、無解答の生徒も 9.1%もいた。（8(2)記述問題、通過率 37.3%）

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- ・問題解決の場面において、表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決するためにどう用いたかといった「用い方」について考え、その説明するための活動を充実させる。その際、実際に行った解決の過程を振り返り、その時に用いた方法について、「用いるもの」や「用い方」の両方に触れながら的確に説明させる。他者に説明する活動を充実させることで、自己の考え方が整理するとともに、理解の深まりが期待できる。
- ・日常生活や社会の事象における問題を理想化したり単純化したりして、数学の問題として捉えなおし、数学を活用して解決していく課題解決の学習過程を、関数領域においても積極的に取り入れていく。

指導方法等の改善計画について〔質問紙調査〕

坂町立坂中学校

(1) 生活・学習

児童・生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容
・新聞を読んでいますか。（ほとんど、または、全く読まない 81.3%） ・1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。（肯定的回答 72.3%）	・帯タイムで行っているドリル学習の時間を利用して、「新聞記事を題材にしたワークシート」を題材に、新聞記事を読み取り、自分の考えを書く活動を定期的に行う。

(2) 教科

国語 児童・生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組
・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめていますか。（肯定的回答 76.7%、広島県平均 81.7%）	・授業の中で話し合い活動の機会を増やす。単なる意見の交流にならないように、複数の意見をまとめて一つの答えを導き出す課題を出すようにする。
算数・数学 児童・生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組
・数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか。（肯定的回答 42.0%、広島県平均 47.6%）	・章末の課題として、解法が多様に考えられる問題や答えや解法が一意に決まらないオープンエンドの問題を扱い、自分の考えや他者の考えを交流したり比較したりすることで、それぞれの解法のよさについて考える機会をもち、別の解き方でも考えてみようとする意識を醸成する。